

山梨大病院が新病棟建設

来年度 着工 がん放射線治療棟も

山梨大付属病院(島田真路病院長)は、中央市下河東の敷地内に新病棟を建設する方針を固めた。来年度中に着工。現病棟の東側に併設し、手術室や入院患者の個室を増設する。がんの放射線治療装置「リニアック」2台を備えた高エネルギー棟も新設し、高度医療の提供と入院患者の環境向上を図る。

同病院によると、新病棟は鉄筋コンクリート7階建てで、延べ床面積は2万879平方メートル。1983年に開設した現在の病棟にも機能を残す予定で、一部の診療科や教育施設としての活用を検討する。施設は現新合わせて5万9786平方メートルとなる。

新病棟建設では、手術室を現在の9室から大幅に増やす計画。また、病床数は606床で変わらないが、病室の拡張や個室の増設で入院患者の住環境の向上を図っていく。このほか、助産師が病院内で主体的に正常分娩や産後ケアに当たる「院内助産所」の拡

張なども計画している。新病棟は来年度中に着工し、工事と並行しながら2015年度の一部開設を目指す。

一方、高エネルギー棟は鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積は1050平方メートル。リニアック治療を行う専門施設として、がん治療に当たる。今年11月に着工し、12年内に完成予定。

島田病院長は「患者が快適に過ごせる環境を整えるとともに、高度医療を提供する施設として整備していきたい」と話している。